

Linux で動作する FireAMP コネクタからの診断データの収集

目次

[はじめに](#)

[診断ファイルの生成](#)

[デバッグ モード](#)

[アンペア コンソールを使用して下さい](#)

[デバッグ モードの有効化](#)

[デバッグ モードの無効化](#)

[コマンド・ラインを使用して下さい](#)

[デバッグ モードの有効化](#)

[デバッグ モードの無効化](#)

[関連情報](#)

概要

この資料は Linux で動作する FireAMP コネクタからの診断ファイルを生成するためにステップを記述したものです。Linux で動作する FireAMP コネクタにおいての技術的な問題に直面すれば、Cisco テクニカルサポート エンジニアは診断ファイルで利用可能なログメッセージを分析したいと思うかもしれません。

診断ファイルの生成

このコマンドの使用によって、Linux Command Line Interface (CLI) からの診断ファイルを直接生成できます:

```
/opt/cisco/amp/bin/ampsupport
```

これはデスクトップの .7z ファイルを作成します。更なる分析に Cisco Technical Assistance Center (TAC) にこのファイルを提供できます。

デバッグ モード

FireAMP コネクタのデバッグ モードはロギングに追加詳細を提供します。それはコネクタにおける問題により多くの把握を割り当てます。このセクションでは、FireAMP コネクタでデバッグ モードを有効にする方法を説明します。

警告： デバッグ モードはときだけこのデータのための Cisco 要求ならイネーブルになっている必要があります。長い時間におけるデバッグ モードを有効にする場合、ディスクスペースを非常にすぐにいっぱいにすることができ、余分なファイルサイズによるコネクタ ログを収集するためにサポート診断ファイルを防ぐかもしれません。

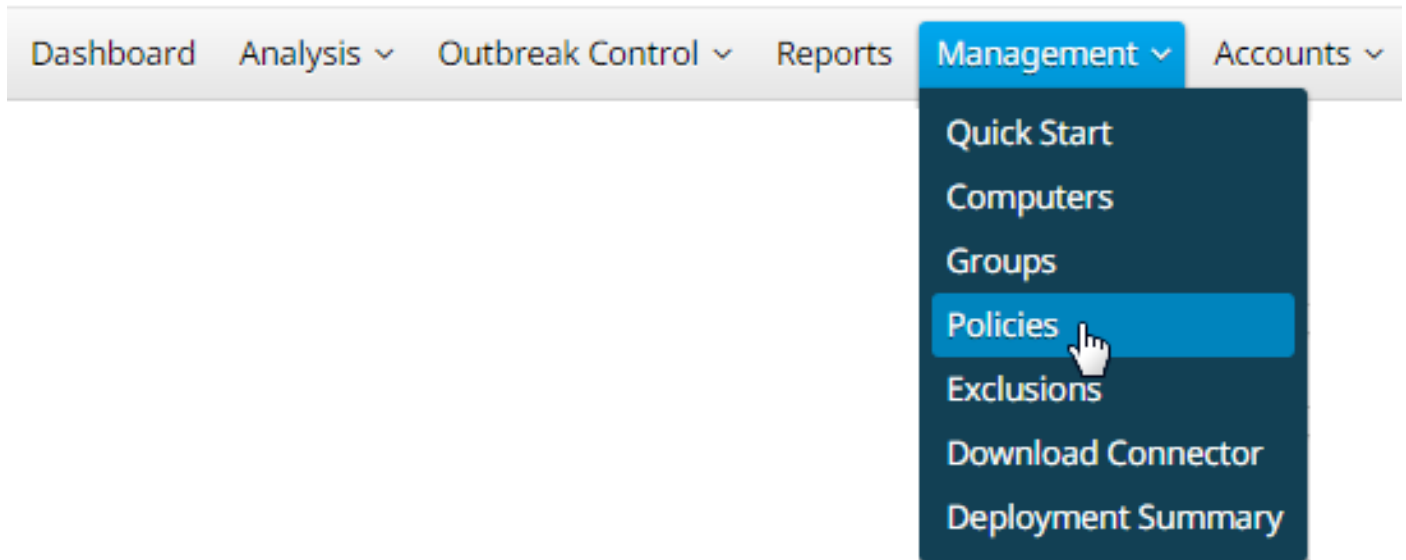
アンペア コンソールを使用して下さい

デバッグ モードの有効化

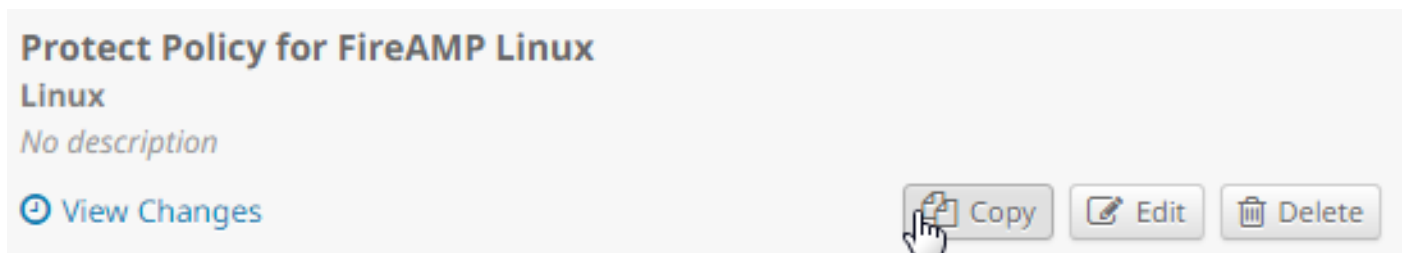
ステップ 5 - 7 の現在のポリシーのデバッグ モードを有効にするか、またはすべてのこれらのステップでデバッグ モードの新しいポリシーを作成できます:

ステップ 1. FireAMP コンソールにログイン して下さい。

ステップ 2. **管理 > ポリシー** を選択して下さい。



ステップ 3. ポリシーをエンド デバイスかコンピュータに加えられる見つけ、『Copy』 をクリックして下さい。



ステップ 4 [Copy] をクリックすると、FireAMP のコンソールがコピーされたポリシーで更新されます。



ステップ 5. **管理機能**を『Edit』 をクリックし、次にクリックして下さい。

< Edit Policy: Copy of Protect Policy for FireAMP Linux

Policy for Linux

Name	<input type="text" value="Copy of Protect Policy for FireAMP Linux"/>
Description	<input type="text"/>

CUSTOM DETECTIONS

Simple	<input type="text" value="Quick SCD"/>
Advanced	<input type="text" value="None"/>

APPLICATION CONTROL

Blocking	<input type="text" value="None"/>
Whitelisting	<input type="text" value="Custom Whitelist"/>

NETWORK

IP Blacklists & Whitelists	<input type="button" value="Edit"/>
----------------------------	-------------------------------------

Exclusions

General | File | Network

Administrative Features

Send Filename and Path Info	<input checked="" type="checkbox"/>
Heartbeat Interval	<input type="text" value="30 minutes"/>
Connector Log Level	<input type="text" value="Default"/>
Command Line Capture	<input checked="" type="checkbox"/>
Command Line Logging	<input type="checkbox"/>

ステップ 6 コネクタ ログ レベルに関しては、ドロップダウン リストからデバッグを選択して下

さい。

Administrative Features

Send Filename and Path Info

Heartbeat Interval 30 minutes ▼

Connector Log Level Default ▼

Command Line Capture Default
Debug

Command Line Logging

ステップ 7.変更を保存するためにポリシーを『Update』 をクリックして下さい。

ステップ 8 ポリシーをアップデートした後、デバッグ情報を生成したいと思うエンド デバイスを含むためにグループを変更する必要があります。

デバッグ モードの無効化

デバッグ モードを有効にするために完了したがデフォルトするためにコネクタ ログ レベルを変更するとデバッグ モードを無効にするために、同じステップを通過して下さい。

コマンド・ ラインを使用して下さい

デバッグ モードの有効化

ポータルへの接続上の問題に直面し、デバッグ モードを有効に したいと思ったら場合 CLI のこれらのコマンドを実行して下さい:

```
/opt/cisco/amp/bin/ampcli  
ampcli>debuglevel 1
```

これは出力です:

```
ampcli>debuglevel 1  
Daemon now logging at 'info' level until next policy update
```

デバッグ モードの無効化

デバッグ モードを無効にするために、これらのコマンドを使用して下さい:

```
/opt/cisco/amp/bin/ampcli  
ampcli>debuglevel 0 Daemon now logging at 'notice' level until next policy update
```

関連情報

- [Windows 上で動作する FireAMP コネクタからの診断データの収集](#)
- [Mac OS で動作する FireAMP コネクタからの診断データの収集](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)